

牛久：学校周辺に見る自然

第7号 みずべ公園

2016年7月13日発行

＜初夏のみずべ公園・生きもの観察 ～⑤植物に集まる虫たち - ブタナ＞

こんにちは。5/12 ひたち野うしく小4年生と歩いたみずべ公園、今回はブタナと虫たちです。



地面にべたっとした葉と黄色のキク科の花(頭状花)に思わず「たんぽぽ～」と言ってしまうそうですが、よく観察すると花の着いている長い柄(茎)が細くて枝分かれしています。葉もよく見ると毛が多く厚ぼったいです。同じキク科の仲間ですが、これは**ブタナ**。前号のハルジオンと同じく上向きに平たい形の花(の集まり)なので、やはりハナアブの仲間がよく訪れます。**タンポポに似たブタナ。要注意外来生物に指定。**



上向きの平たい花には、力が弱く口先の短いハナアブの仲間がよく訪れる。

ブタナの蜜や花粉をなめるナミホシヒラタアブ(左上)、ホソヒラタアブ(右上)、ナミハナアブ(左中)、シマアシブトハナアブ(右下)、ホソヒメヒラタアブ(左下)。

よく見ると、もようも大きさもいろいろですね。ハチとの違いは、もうわかりますか？



ブタナの蜜を吸う、ハナバチの仲間。

体は小さいけれど、こちらはハナバチの仲間です。ハナアブとの一番の^{ちが}違いは羽が4枚あることですが（ハナアブはハエと同じく2枚）、羽をたたんでいると分かりにくいですね。その他には、頭のわり^{ふくがん}りに複眼が小さく^{しよつかく}触角が長い。胸部と腹部の間がくびれるなどがあります。ところでミツバチやアシナガバチなどの^{どくはり}毒針は、^{さんらんくだ}産卵管が変化したものですからオスにはありません。つまりオスのハチは^き刺さないのですが、さらに言うと^さ刺すハチの方がずっと少なく、ずんどうで原始的なキバチやハバチの仲間では^{さんらんかん}産卵管としてはたらいっています。刺すハチは一般に胸・腹間のくびれが深く、ミツバチなどのようにおとなしいハチから（とは言ってもつかんだり^す巣を攻撃すれば刺しますよ）、オオスズメバチのように攻撃的なものまでいろいろです。また大あごが発達して、かみつくものもいます。

最後に、第5号でも^{しよつかい}紹介したヤブキリです。まだ^{ようちゆう}幼虫で、^{かふん}花粉を食べているようでした。幼虫のうち^{にくしよくせい}は葉や花粉を食べますが、成長するにつれ肉食性が強くなり、カマキリでさえも食べてしまうこともあるそうです。

【理科支援員：宮内】



ブタナの^{かふん}花粉を食べる、ヤブキリの^{ようちゆう}幼虫。

やぶにすむキリギリスの仲間^{ようちゆう}で幼虫は葉や花粉などを食べるが、成長するにつれ肉食性が強くなり他の昆虫を食べる。